

別添資料

知的障害のある児童の深い学びにつながる指導の工夫
— 知識・技能を構造化する場面を意図的に設ける視点の整理を通して —

広島県立福山北特別支援学校

柳 優美

別添資料① 表3 深い学びの姿、表4 教師の指導の工夫

別添資料② 福北版深い学びにつながる指導の工夫リスト

別添資料③ 深い学び等具体例一覧

表3 深い学びの姿（全25クラス中で現れたクラス数を二値化により集計。）

千葉大学附属版深い学びの姿		クラス数
新しい視点に気付くひらめく	児童は視点を変えながら物事を見ている。	0
	児童は出来事の因果関係、物の性質への視点をもっている。	1
モノとモノを比べる	児童は性質を観察している。	6
	児童は違いに気付いている。	2
予測する（仮説を立てる）	児童は次はどうなるか予測している。	21
熟達する	児童の方法は熟達している。	2
経験や知識を生かす	児童は経験と「今」をつなげている。	22
工夫する	児童は試行錯誤している。	7
	児童は目的に合った方法を探っている。	1
上手くできたことを実感する	児童は自分の力を発揮したいと思っている。	21
	児童は上手くできた実感を得ている。	7
	児童はあきらめない、くじけない。	0
挑戦する	児童は目的のために気持ちや行動を調整している。	4
	児童は集団の中での自分の役割と、自分が今していることを比べている。	2
役割を果たそうとする	児童は活動の目的と自分のしていることを比べている。	0
人と共有する	児童は人と共感したいと思っている。	16
	児童は活動の目的を人と共有している。	11
	児童は信頼をベースに活動している。	4
	児童は人に合わせている。	1
鹿児島大学教育学部附属特別支援学校（令和4年）「本校の子どもたちの「深い学び」の姿のイメージ		クラス数
①知識を相互に関連付けてより深く理解する	児童は学んだことと生活の関連に気付いている。	5
	児童は学んだことと他の学習との関連に気付いている。	5
	児童は体験を伴う活動に取り組みながら理解している。	11
	児童は分かったことや考えたことに理由を添えて説明している。	1
②情報を精査して考えを形成する	児童は対象の事象や意味を調べている。	0
	児童は提示された情報や教師のモデル、友達の意見や活動などを手掛かりにして考えている。	4
	児童は選択肢から自分の考えに合うものを選んでいく。	10
	児童は複数のものを比較して考えている。	3
③問題を見いだして解決策を考える	児童は分からないことや課題などの問題に気付いている。	0
	児童は自分自身で目標を立てたり、友達や教師と話し合って目標を立てたりしている。	0
	児童は問題の解決方法を予想している。	0
	児童は知っている方法や考えた方法で試行している。	8
④思いや考えを基に創造する	児童は学んだことを異なる状況や場面で発揮している。	0
	児童は学んだことを生かして、感じたことや考えを基に自分なりの表現をしている。	1
	児童は学んだことを基に、新たな表現をしている。	1

※文言は研究授業での使用を想定し、先行研究の表現と異なる「児童は～している。」という言い回しに統一している。

参考文献：「知的障害特別支援学校における「深い学び」の検討ー各教科等を合わせた指導におけるエピソード記録からー」千葉大学教育学部研究紀要 第69巻 pp. 65-71

鹿児島大学教育学部附属特別支援学校（令和4年）：「知的障害のある子どもたちの「深い学び」の実現に向けた授業づくり」鹿児島大学教育学部附属特別支援学校研究紀要 第23集

表4 教師の指導の工夫（全25クラス中で現れたクラス数を二値化により集計。）

教師の発話及び行動の機能カテゴリー（関口ら（2020））		クラス数
説明	教師は内容の説明をする。	25
促し	教師は発話・動作の促しをする。	19
確認	教師は確認の確認をする。	2
	教師は意図の確認をする。	0
	教師は意見や進捗状況の確認をする。	1
投げかけ	教師は課題について考える視点の提供をする。	3
	教師は課題についての具体的指示をする。	3
受け止め	教師は共感する。	6
	教師は児童の表現の受け止めをする。：教師は児童の表現の外在化をする。	3
	教師は一言での言い換え・まとめをする。	3
モニター	教師は軌道修正をする。	2
問いかけ	教師は児童の意見への反映をする。	1
	教師は知識・経験の想起促進をする。	1
	教師は内容への問いかけをする。	14
	教師は理由・根拠の掘り下げをする。	1
	教師は考えや理由の問いかけをする。	3
教師 主導	教師は正誤の伝達・教示をする。	13
動機の維持・向上	教師は励まし・称賛・盛り上げをする。	21
授業の進行	教師は進行・指名をする。	23
発表援助	教師は導き発話・誘導をする。	13
	教師は発表援助をする。	7
学習参加	教師は学習態勢の維持・改善をする。	22
鹿児島大学教育学部附属特別支援学校（令和4年）「深い学びを実現するために有効だった工夫」		クラス数
①知識を相互に関連付けてより深く理解する	教師は写真やイラスト、動画、具体物、班具体物を使用することで対象への明確なイメージを持つことができるようにする。	21
	教師は学習ファイルでこれまでの学びを確認できるようにする。	3
	教師は本時の学習と関連のある学びの履歴を提示する。	3
	教師は身につけたことをどのような場面で生かすことができるのか具体的な事例で伝えたり考えたりできるようにする。	3
②情報を精査して考えを形成する	教師はこれまでの学びの情報やキーワードやヒントを提示して、考える手掛かりにできるようにする。	13
	教師は正誤の明確なモデルを提示し、判断できるようにする。	0
	教師は友達の様子を参考にできる環境を設定する。	8
	教師は例を示して見通しを持てるようにする。	8
	教師は具体物や半具体物を操作しながら考えることができるようにする。	5
	教師は子どものつぶやきを可視化して提示する。	0
③問題を見いだして解決策を考える	教師はクイズ形式など子どもが興味をもって取り組める発問をする。	6
	教師はチェック表を活用して、自分のできていることやできていないことを実感できるようにする。	1
	教師は複数ある方法の中から学び方や考え方を選べるようにする。	0
	教師は「なんでだろうね」や「どうしてだと思う」などの問いかけをして思考を働かすことができるようにする。	1
④思いや考えを基に創造する	教師は複数ある方法の中から表現方法を選ぶことができるようにする。	0
	教師は自信をもてるような言葉掛けや称賛をする。	2

※文言は研究授業での使用を想定し、先行研究の表現と異なる「教師は～する。」という言い回しに統一している。
 ※「内容の説明」「進行・指名」は、授業進行の必須要素であるため、分析対象から除外した。また、「学習態勢の維持・改善」は一時的な逸脱の際に行われる教師の対応であり、深い学びにつながるための指導の工夫とは異なる性質をもつ為、閾値を超えているが、本研究では児童の深い学びに向けた教師の指導の工夫とは位置づけず、分析対象から除外した。

※下線部は内容が同様の意図であるため、閾値ベースの抽出の際に教師の発話及び行動の機能カテゴリーの表現に統一した。

参考文献：関口朋子・細川かおり（2020）：「知的障害児のアクティブラーニングにおける深い学びを促す教師の支援—生活単元学習におけるふりかえりの分析—」千葉大学教育学部研究紀要 第68巻pp. 353-358
 鹿児島大学教育学部附属特別支援学校（令和4年）：「知的障害のある子どもの「深い学び」の実現に向けた授業づくり」鹿児島大学教育学部附属特別支援学校研究紀要 第23集

【単元開始前】

①「深い学びの姿」の中からどの姿が現れると単元の目標が達成されるかをイメージし、A～F（児童名出席順）の記号を付けてください。

②①でイメージした姿が現れるために必要な授業で行う「深い学びにつながる指導の工夫」に○を付けてください。○を付ける指導の工夫は1～3個程度とし、焦点化してください。単元の途中で、追加削除しても構いません。

【単元終了後】

担任同士で深い学びの姿があったか、どんな姿だったか、そのための指導の工夫がどうであったかを話し合ってください。（一人担任の場合は、ご自身で振り返ってください。）

①深い学びの姿（児童の姿）

カテゴリー	深い学びの姿	単元前					単元後				
経験や知識を生かす	児童が経験と「今」をつなげている姿。										
知識を相互に関連付けてより深く理解する	児童が体験を伴う活動に取り組みながら理解している姿。										
	児童が学んだことと生活の関連に気付いている姿。										
	児童が学んだことと他の学習との関連に気付いている姿。										
予測する（仮説を立てる）	児童が次はどうなるか予測している姿。										
問題を見いだして解決策を考える	児童が知っている方法や考えた方法で試行している姿。										
工夫する	児童が試行錯誤している姿。										
モノとモノと比べる	児童が性質を観察している姿。										
情報を精査して考えを形成する	児童が選択肢から自分の考えに合うものを選んでいく姿。										
上手くできたことを実感する	児童が自分の力を発揮したいと思っている姿。										
	児童が上手くできた実感を得ている姿。										
人と共有する	児童が人と共感したいと思っている姿。										
	児童が活動の目的を人と共有しようとしている姿。										

【参考文献】

菅原宏樹・齋藤しおり・丹野祐介・小林寛子・名取幸恵・安田貴・高橋良育・石田哲也・佐久間智大・野村知宏・細川かおり（2021）：「知的障害特別支援学校における「深い学び」の検討ー各教科等を合わせた指導におけるエピソード記録からー」千葉大学教育学部研究紀要 第69巻 pp. 65-71
 鹿児島大学教育学部附属特別支援学校（令和4年）：「知的障害のある子どもの「深い学び」の実現に向けた授業づくり」鹿児島大学教育学部附属特別支援学校研究紀要 第23集 p. 92
 関口朋子・細川かおり（2020）：「知的障害児のアクティブラーニングにおける深い学びを促す教師の支援ー生活単元学習におけるふりかえりの分析ー」千葉大学教育学部研究紀要 第68巻 pp. 353-358

②深い学びにつながる指導の工夫（教師の支援）

カテゴリー	教師の指導の工夫	単元前	単元後
知識を相互に関連付けてより深く理解する	教師は写真やイラスト、動画、具体物、半具体物を使用することで児童の知識・技能をつなぐ指導の工夫を行う。		
問題を見いだして解決策を考える	教師はクイズ形式など子どもが興味をもって取り組める発問をする。		
情報を精査して考えを形成する	教師はこれまでの学びの情報やキーワードやヒントを提示して、考える手掛かりにできるようにする。		
	教師は友達の様子を参考にできる環境を設定する。		
	教師は例を示して見通しを持てるようにする。		
	教師は具体物や半具体物を操作しながら考えることができるようにする。		
問いかけ	教師は内容への問いかけをする。		
促し	教師は発話・動作の促しをする。		
教師主導	教師は正誤の伝達・教示をする。		
発表援助	教師は導き発話や誘導をする。		
	教師は発表援助をする。		
受け止め	教師は児童の発言や行動、視線などに共感する。		

深い学びの姿を引き出すための実態把握。（授業中）

本単元以外の時間に取り組めること。

知識・技能を活用・発揮し深い学びにつながる場面の具体例（田村（2018）より抜粋しまとめたもの）

※学習活動や単元構成を考える中で、児童が知識・技能を活用・発揮し深い学びにつながる場面の工夫をする。

単 元 構 成	単元を通して追究していくテーマを用意し、児童生徒の連続的な学びを生み出す場面と、単元の前半に知識の習得場面、後半に知識を活用・発揮する場面 ¹⁾	学 習 活 動	「なぜだろう」「どうしてだろう」と考え続けることを何度も経験する状態が生まれるようにする場面
	児童生徒が真剣になる学習活動を設定する場面や学習活動の場の構成		児童生徒のもつ知識・技能を発達や学習活動に応じて楽しみながら実感的に学ぶことができる場面
	何をどういった順で学ぶことで構造化に向かいやすいかを考え工夫すること		相手に共感してもらったり、認められたり、受け入れてもらったりすることで発言の意欲を高め、友だちや教師など他者との会話が活発になるような主体的で対話的な学びの場面
	日常生活や学校生活における豊かな体験や価値のある経験の繰り返しを図ること、解決すべき課題が日常生活と密着したリアルなものであること		

【参考文献】田村学（2018）：「深い学び」東洋館出版社

福北版 深い学びの姿 具体例一覧

※具体例の段階は、学習指導要領における各段階を参考にしている。

カテゴリー	深い学びの姿	具体例 1（第1段階～第2段階程度）	具体例 2（第2段階～第3段階程度）
経験や知識を生かす	児童が経験と「今」をつなげている姿。	（前回までは歌の時間は興味を示さなかったが）前奏が聞こえると立ち上がり教師の傍らに来て一緒に体を揺らす姿。	校歌の練習時に、昨年度の担任教師が指導した校歌の手話を自ら再現する姿。
知識を相互に関連付けてより深く理解する	児童が体験を伴う活動に取り組みながら理解している姿。	自動販売機の扱い方を模擬的に練習する中で、手順を分かる姿。	自動販売機の扱い方を模擬的に練習する中で、いつも取り忘れるおつりを自分でとる姿。
	児童が学んだことと生活の関連に気付いている姿。	遊びの指導で行った遊びを、休憩時間に行おうとする姿。	学習したアルファベットを休憩時間に校内で見付ける姿。
	児童が学んだことと他の学習との関連に気付いている姿。	以前粘土で遊びの指導で行った丸める活動を、図画工作科の時間に同じ方法で丸めて形を作る姿。	「〇〇でもやったね。」と以前の知識を言葉で表現する姿。
予測する（仮説を立てる）	児童が次はどうか予測している姿。	挨拶の後、音楽の授業の最初に行っている「始まりの歌」を歌おうと立って準備する姿。	風で動くおもちゃに対してサーキュレーターを持ってくる姿。
問題を見いだして解決策を考える	児童が知っている方法や考えた方法で試行している姿。	シャボン玉に手を伸ばし、握ってみたり、叩いてみたりして何度も繰り返す姿。	ホースの先が凍っていることに気付き、水道をひねって水を出して再度ホースの先を確認する姿。
工夫する	児童が試行錯誤している姿。	シャボン玉の吹き出し口をのぞき込んだり、息をふきかけたりして何度もシャボン玉に関わろうとする姿。	教師が渡したアルファベットのカードと周囲を見比べ、カードと同じアルファベットを探そうとする姿。
モノとモノと比べる	児童が性質を観察している姿。	収穫したトマトを手で転がし遊びながらも、視線を度々トマトに向ける姿。	実ったトマトをじっと見つめる姿。
情報を精査して考えを形成する	児童が選択肢から自分の考えに合うものを選んでいくか。	校外学習のメニューを選ぶ際に、料理の写真を見て好みの写真にタッチをする姿。	いくつか並んだ料理の写真を見比べ、メニューの名前を言ったり、指をさしたり、写真カードを貼ったりする姿。
上手くできたことを実感する	児童が自分の力を発揮したいと思っている姿。	トマトに自ら手を伸ばし、収穫しようとする姿。	教師の説明を聞き、手順に従って丁寧にトマトを収穫しようとする姿。
	児童が上手くできた実感を得ている姿。	自分の作ったおもちゃで遊ぶ姿。	自分の作ったおもちゃを「見て。」と人に見せる姿。
人と共有する	児童が人と共感したいと思っている姿。	傍で歌っている教師の方を向いて体を揺らす姿。	「見て。」と言って教師や友だちに自分の表現活動を見せる姿。
	児童が活動の目的を人と共有しようとしている姿。	「いろいろな遊びを知ろう」という目標に沿って新しい遊び方を見付け、その遊びに教師を誘う姿。	「何個あった？」と友だちに問いかける等、本時の目標である「野菜の数を数えよう」を意識している姿。

【参考文献】文部科学省（平成30年）：特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）開隆堂出版

福北版 教師の指導の工夫（自由記述部分） 具体例

指導の工夫	具体例
深い学びを引き出すための実態把握。（授業中）	・新しい遊び方を見付けられるように、道具を遊具の上に配置するなど、仕掛けを行い見守る。 ・活動を選択する時に、同じところに写真カードを貼る児童に対し、貼る順番を変えたり、枠を作ったりしてどのように動くかを確認する。 ・折り紙という素材にどう関わるかを確認するため、何も指示せずに折り紙を渡してみ、どのように関わるかを確認する。 など
本単元以外の時間に取り組めること。	・生活単元学習で行ったアルファベットダンスを、日常生活の指導（朝の会）で簡単な体操として行う。 ・作成したアイロンビーズの作品を、校内の教師にプレゼントし「ありがとう。」と言われる経験を重ねる。 など

